

# 総合患者支援センターニュース

〒700-8558  
岡山市鹿田町2丁目5番1号  
岡山大学病院  
総合患者支援センター  
☎086-223-7151 (代表)  
☎086-235-7744 (直通)

Integrated Support Center for Patients and Self-learning  
Okayama University Hospital



センターの活動に関しては  
ホームページ ( <http://www.cc.okayama-u.ac.jp/> )

## 7年目の抱負

総合患者支援センター長 公文 裕巳

岡山大学病院は「高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育てます」という基本理念のもと、人間性豊かな医療環境の実現を目指しています。総合患者支援センターの役割は、高度に専門化、分化する診断・治療技術、変化する医療・社会制度、ならびに変貌する地域医療の提供体制のなかで、一人一人の患者さんの直面する問題の解決に向けて「温かい心と知識と技術に裏打ちされた支援の手」を差し伸べることにあります。今後の目標のひとつとして、本センターが明日の医療人育成の場としても広く活用されるように発展させていくことを掲げたいと思っています。



センターは発足して7年目となりますが、多様化の一途をたどる患者・家族の直面する問題の解決に向けて、さらなる体制整備を推進する必要があります。昨年度からは、主として種々の相談を担当する「患者支援室」と、主として地域連携を担当する「地域医療連携室」の2室体制で、活動拠点も旧病棟の一角から外来の表通りに移っています。今年度には公費支援係がセンター内に移転し、相談業務窓口の一本化が実現することになっています。また、一步踏み込んだ相談と質の向上という観点からは、患者さん自らが組織するサロン形式での取り組みが望ましい形態のひとつであると考えられ、オストメイトサロンの実績を生かして、がん患者サロン等の開催が出来ればと考えています。センター活動の基本は、患者さんの目線に如何に物事が捉えられるかであり、その意味からも一般ボランティアとともに患者ボランティアの方々が支援センターのチームメンバーとして、種々の活動に参加いただくことが最も重要であります。ボランティアコーディネーターの設置などの体制整備に改めて取り組みたいと考えています。

一方、地域医療連携と退院支援は本センターの主要機能のひとつとなっており、変貌する医療の提供体制に対応した退院支援のアセスメントとサポート体制の確立が必要となっています。患者・家族が安心して地域で療養できるように、継続した医療のケアを提供できるように、岡山大学病院の全てのスタッフが協力して情報を収集し、地域の関連医療機関と顔の見える連携体制を構築しなくてはなりません。したがって、診療担当者はもとより、研究・教育に従事する多くの学内の教官が、自らの専門性を発揮する医療研究現場として、また、医療人育成の場としてセンターを活用していただく仕組みを構築することも今後の課題であると考えています。現在活動している主な専門チームは、オストメイト支援チーム(OST)、栄養サポートチーム(NST)、心理相談、女性相談、母乳育児相談、歯科部門が中心の各種チームなどです。さらなる「支援の広がり」と質の向上を目指して、医・歯・薬学に保健学が融合する岡山大学の総合力を基盤とする取り組みを推進していきたいと思っています。皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 「岡山大学病院 歯の衛生週間 イベント報告」

H21年6月4日(木)に「元気な歯・健やかな体 2009」と題して、歯の衛生週間のイベントを岡山大学病院 歯科棟にて開催いたしました。当日はテレビの取材等も入り、様々なイベントに多くの方が参加して下さい 大変盛況でした。毎年行っているイベントですので是非みなさん足をお運び頂きたいと思ひます。



子供さんが対象のフッ素塗布コーナーです。  
小児歯科医の検診の後、歯科衛生士がフッ素を塗布しました。テレビの取材中の風景です♪

歯科技工士による 特殊工物の展示です。  
最新の歯科技工の技術に皆さん興味津々でした。



歯科看護師による嚥下食の展示です。  
嚥下食のサンプル等を実際に試食して頂き  
食品メーカーの方から説明やアドバイスを頂きました。



歯科医でもありチェロの奏者でもある三船  
先生をお招きし、「チェロとピアノ  
の生演奏会」を催しました。  
約90名の観客を魅了した演奏でした。



「ぬりえコンテストの表彰式を行いました。  
応募総数90枚うち14名の方に表彰状と記念品  
が贈呈されました。元気いっぱいの絵がたくさん  
集まりました。



来年度もこの時期に開催予定です。  
多くの方のお越しをお待ちしております。



## ☆ 病院ボランティアをしてみませんか ☆

当院では、患者様が少しでも安心して治療を受けることができるよう、また入院中に少しでも安らぎが感じられるよう、ボランティアのメンバーが活動を行なっています。

### 外来案内

- \* 診察・検査を受けられる方のご案内
- \* 外来受診の説明
- \* 病棟へのご案内

### 患者図書室（入院棟11階）

- \* 本の貸し出し

### 園芸

- \* 入院棟の裏に、四季折々の花を栽培している花壇や桃の木などを育てている庭があります。

### 子どものあそび相手

- \* 小児科に入院中のお子さんとプレイルームと一緒に工作などをして遊びます。



### 募集期間

前期・・・4月～5月

後期・・・10月～11月

☆ご希望の方は、総合患者支援センター TEL:(086)235-7744(直通)にご連絡ください。お待ちしております！

## 乳がん患者のための

## ピアサポーター活動開始にあたって

乳がん・治療再建センター 副センター長(看護師) 露無祐子  
私が初めて「ピアサポーター」という言葉を聞いたのは4年ほど前のことでした。ピア(Peer)とは、「仲間」、サポーターとは「支え合う人」という意味で、医療者によるサービスとは質の違う支援をピア(同病者)が行っていることを知りました。それが、オストメイトビジターでした。似た体験をもつ者同士だからこそ得られる深い共感や、闘病中に生じる様々な困難に対処する実践的な知恵や工夫など、教育を受けたピアが支援活動をされていました。私は、いろいろな問題を抱えている乳がん患者さんに出会うたびに、乳がん患者さんにもピアサポーターが誕生するといいな、と思うようになりました。昨年、総合患者支援センター、乳がん治療・再建センターの協同で乳がん患者のためのピアサポーター養成研修会が実施され、今年4月に一期生5名が誕生し活動を開始しています。一人でも多くの患者さんが自分らしい生活を送る手助けとなるようこの活動を継続していきたいと思えます。



総合患者支援センターでは、私達が皆様のご相談をお受けしています！

医療ソーシャルワーカー (MSW)

看護師



石橋 京子



廣田 奈美



片岡 敏子



梅田 恵子

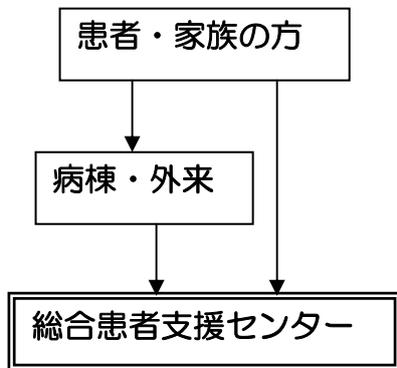


看護師長 安藤 弥生



広森 由紀

☆ご相談依頼の流れ



病棟や外来を通してご相談頂けます。  
患者・家族の方からも、直接ご相談頂けます。

こんな時、ご相談ください！

- ・医療費や生活費のことが心配
- ・介護保険や身体障害者などの福祉の制度について知りたい
- ・自宅での療養の仕方や介護の方法を教えてください
- ・退院後の生活が心配
- ・治療や手術が不安
- ・転院や施設の入所について相談したい など。

\*どこへ相談すればいいかわからない時など、お気軽におたずね下さい。  
ご希望があれば病棟にも伺います。

＊－＊－＊－＊ 心のケア ＊－＊－＊－＊ 身体と心のエンジン

副センター長 岡田 宏紀

車には色々な排気量のものがあります。軽自動車は660ccですが、普通自動車の中には4000ccを超えるものもあります。これら排気量の違う車が、同じような働きをすることができるでしょうか？ これは無理ですね。当然大きな排気量の車がスピードも速いし、馬力もあります。同じように、人の身体やところにも、生まれ持った排気量の大きさがあるように思えます。低排気量の方は、血圧が低めでやや疲れやすく、一度に多くの事をすることが困難です。これに対して高排気量の方は、血圧も高めで、元気澆刺として次々に仕事をこなして行きます。高排気量の方から見れば、低排気量の方は怠けているように見えてしまうかもしれません。しかし、これは排気量が元々異なるのですから、同じように動けると考えること自体に無理があります。人を見て色々な判断をする時に、このような視点も入れていただければ、心ない「怠け者呼ばわり」も減ると思います。

＊－＊－＊－＊

